

香川県立三本松高等学校 「三高みんなの食堂プロジェクト」

高校生ボランティアアワード2024

「三高みんなの食堂プロジェクト」

【活動概要】

地域の人たちと一緒に自分たちの手で三本松高校の学食をよくなり、そこを中心にして地域を元気にする活動

- 2020年9月に活動開始
- 生徒が地域の人と協力して主体的に活動している
調理・運営は地域の農業法人の方々、地元産の野菜、米、魚を中心に安価で美味しくパランスの良い食事
- 授業でも部活動でもなく自分の時間で行き込む「プロジェクト」という意識
勉強や部活動をしながら自分の時間を作り出して活動
- 在校生・全職員が参加者
運営側の視点で学食に関わり、自分たちで学食を良くする主体的に行動することがみんなの目標
チームをつかって自主的に活動
自分の良さを発揮する場、チャレンジするチャンス
全員が同じではなく、それぞれの状況に合わせて活動

- SDGsの考え
食品ロスの削減、地産地消の推進、物を大切に活動
そしてずっと住み続けたい
- いろいろな得意を生かした活動
普通科、理数科の学校のなかでその特色を生かした活動
- まずは学食から
まずは身近なところから良くし、学食を起点に食を通じて地域が元気になることを目指す
- 地域の方と交流の場
高齢者の方の学食利用など
地域の方と生徒の交流を
深める活動
- つながり
いろいろな立場の多くの方とつながり成り立っているプロジェクト



日替わり定食

【各チームの主な活動】

- それぞれのチームで失敗を恐れず自分のやりたいことに挑戦する。やりたいことがあれば新たに「チーム」を作る
校外でのイベントはチームにこだわらず、どのチームのリーダーも参加
- 畑チーム
校内に開墾した畑で育てた野菜を食材やマルシェで利用。循環型農業にも挑戦中
- メニュー開発チーム
主に地元の野菜や魚で食品ロス削減に向けたメニューを考案
- 内装・装飾チーム
地元産品の廃棄物を有効活用。のれん、織、ビニールテープなど
- 総務チーム
経営の改善に向けての活動と各チームの経費管理。全校生の意識を高める活動
- マルシェチーム
地域でのマルシェに出演して地域との交流と活動を知ってもらう
- イベント企画チーム
餅つきや焼き芋大会、梅ジュースの作成と配布など各種イベントの企画と運営
- 広報チーム
手書きメニューやコラム、活動の校内への広報活動とSNSなどで校外への発信
- ものづくりチーム
オリジナルオールのデザイン、木製の食券や会員証の作成、いすのリニューアル
- 環境整備チーム
ゴミ箱の修繕、ベンチのペイント、食堂の内外をきれいに整える清掃活動

「できるときにできることから自分たちの手で」

【目的・志】

一部のリーダーだけの活動ではなく、みんなが自分で考え自ら行動できる人になる
リーダーでない人は他の活動ではリーダーに、リーダーは他の活動ではサポーターに



ゴミ箱をリペアする高校生ってカッコいい

- すべての人が自分のこととして行動することをめざして
- 全校全体で取り組む
生徒と先生、学校の全員が参加者として、同じ立場から自分たちの場所をよくしようとする自治的な集まり。
それぞれ個人の状況に合わせて自分たちができることをできるときに実行している。
- この活動に指導者はいない。リーダーを中心に一人一人が主体となって自主的に活動している。

- みんなに拍手、全校生の力**
みんなが同じところを履くってすごい。だからできることがある
- 完全事前購入の食券制度、メニューは日替わり定食(弁当)1種類、旬の野菜が続くこと⇒みんなの理解でロス削減
規格外などの活用、地域食材を積極的に活用してもらって⇒コストダウンで持続可能な安定経営の学食
みんなが理解して行動することで実現できている
できることはいろいろなある。
学食で食べること、この活動を理解すること、応援すること、広めることも活動の一つ

- みんなて、日常的に、継続して**
無難な活動は続ける。多くの人の一歩一歩
- リーダーもリーダー以外の人それぞれの状況の中で参加者としてできることを考えて行動する
生産者がいて消費者がいるという、食べ物が自分の元に来るまでの過程を考える意識をもち、
まずは学食という自分たちが直接手の届くところからの行動が広がっていくことが、私たちの目標
持続的に安くておいしい食事が食べられるためにできること。そのために自分たちが進んで活動する
多くの人と関わりをもち地域の人や学年をこえた交流を行うことを大切にしている。
- 学食から学校全体を、学校全体から地域全体を、地域全体からまち全体を
よくしていくことを目標として活動している
学食で実践しているSDGsの考え方を地域へも伝える



リーダー会

規格外野菜の新たな活用

「学食から地域食堂へ」

「学食を地域の人手にとっても大切な場所、地域の人との交流場所にする」
3年間中三高生にとっての場所になった三高の学食を地域の人手にとっても、行きたくなる場所、なくてはならない場所にする

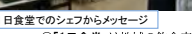
- 地域の方に寄りかけること、地域の方と一緒に取り組む活動をたくさん実施中**
- おばあちゃんたちの笑顔
顔を見ながらみんなで食べるのが最高！
○高齢者など地域の人に学食を利用してもらっている
楽しく明るく食べられる場所
高齢者同士の交流場所
高齢者と高校生との交流場所



学食利用の地域の方

- 親身知りになる → 互いに望望しあう 互いに親しみをもつ
会員証を作って、学食(高校)と地域との一体感を高める
- こどもも母も喜ぶ「お母さんの交流カフェ」
半学年ごとに、世代をつなぐ1日だけの地域のコミュニケーションパーティー

- 交流カフェいろいろな世代が楽しみ
みんなが交流する場をつくる
カフェだけでなくゲームなど楽しんでもらう
- マルシェなど学校外に出て地域の方と交流する
地域食材のこぼれや食品ロスの削減
地域の人に地元食材の良さを伝える
地産地消を進めることになる
食品ロスを削減できるメニューの提案
地域の人に「三高みんなの食堂プロジェクト」の活動を知ってもらう
- オリジナルオールを作って親しみをもってもらう
- マルシェは独立採算制に
食事に発注し、仕入れて販売 双方の収益をめざす
○活動費を得る工夫と努力
いろいろな活動をして自分たちで活動資金を得る工夫

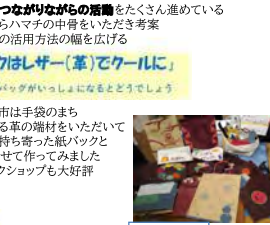


1日食堂でのシェフからメッセージ

○「1日食堂」は地域の飲食店さんが学食に来て料理を提供してくれる。焼肉屋さん大人気

- 「おまがえるハマチたち」**
ハマチの中骨からソフトふりかけ誕生、いやほほ！
ハマチの中骨 → ソフトふりかけ開発 → 「おまがえるハマチたち」販売
- 地域の人手とつながりながら活動をたくさん進めている
地元漁協からハマチの中骨をいただき考案
未活用部位の活用方法を広げる

- エコパックはレジャー(革)でクールに」**
素材の革と使っていない紙パックがいっしょになるとどうしよう
- 東かがわ市は手袋のまち
捨てられる革の端材をいただいた
みんなで持ち寄った紙パックと組み合わせで作ってみました
このワークショップも大好評



革のエコパック

- Good job! 手袋レスキュー隊**
捨てられるはずだった「片っぽ手袋」がみんなを救い出しています
- 廃棄予定の手袋が「手袋ゲーム」でみんな大盛り上がり
- 学食の生ごみは地域の企業から**
循環型の取組を進めています



【成果・実績】

- 私たち、ステップアップ？した!**
私たち、人としてとても成長できる気がします。実感あり!
- 一体感を感じる
経営が固かった学食を全校生で立て直すという、一人一人が自分事
として、食堂の継続について考えるようになった。今では様々な
学年の多くの生徒が利用している。食堂がよくなって学校の雰囲気も
良くなっていく感じ。応援してくれる人や自分からやってみようと思
う人が多いた。

- 活動を通して、学校のみならず地域の方々に喜んでもらえる感謝
されたことが増え、やりがいをもって積極的に活動できるようにな
った。生徒の学食利用率がかなり上がった。
- 素晴らしいことが見えた
今まで目を見てもなかった地域特有の産業や魅力について深く
知ることができて、気持ち良く地元に対する興味や関心が湧き、地
域のことが好きになった。

- 喜んでくれて嬉しい!**
いつもここで飲んでおしゃべりする楽しさ、大きなことでも
ないけれど、みんなに喜んでもらえてる。
- いろいろな人に来てもらえる
この活動を通して、学食を利用してくれている地域の人や食材を
提供してくれている人はもちろん、たくさんの方に喜んでもらえた。
マスコミの報道などで取り上げられてからは、私たち以上に地域の
人が喜んでくれて、とてもうれしかった。

- 人とのつながりを感じ
この活動で、多くの人が関わってくれて、大切に思ってくれているから
ぞり立っている。目に見えないところでも私たちがために支援・協力
をしてくださっている方がいるということを感じ、つながりが大切
にしている。
- 食に対する意識が変わった
実際に野菜を作ることに関わった私たちがだからこそ、食べるの
ありがたみや作り手の人たちの苦しみや苦労がわかる。食べものを無
駄にせず、大切にすることを感じ、とても勇気が入る。学食ではみんな完全

- わかるわかる！チャレンジの楽しさ**
気軽にやりたいことをやってみる。
- チャレンジ精神が身についた
とにかくやってみようというチャレンジ精神が身に付き、やってみれば
できるという経験がたまっていく。気軽にできること、積極性や主
動性も同時に身に寄せることができる。
- 次は自分たちがまちを担っていく存在に・・・
この活動のおかげで私たちは地域の一人であるという実感を強く持
つことができたように、自分たちの活動でまちを変えることができ
ることも多い。卒業、この活動を継承した自分たちが中心となって地
域を動かしていきたい。



集合写真

活動団体プロフィール

生徒が主体となって地域の人手とともに高校の学食を活性化し、そこを拠点として地域を元気にしようとする活動をしている。

2020年の9月から部活動でも委員会でも「プロジェクト」として活動を開始。誰からも指示されることなく自分たちでできることを考えて実行する集まりで、ほとんどの生徒が部活動にも所属している。

「三高みんなの食堂プロジェクト」は三本松高校の生徒全員と先生が参加者で、みんなが自分のできるときにできることを実行している。

さらに積極的に関わる「プロジェクトリーダー」は自分で行いたいことを見つけている人を中心に活動している。プロジェクトが始まったときは24人だったリーダーが、今は66人になっている。学年やクラス関係なく仲間と共に活動している。さまざまな大きな企画に参加してこの活動を発展し、交流の輪を広げようとしている。

ボランティアって?
やってもやらなくてもいいことを自分からできるのかな
誰かがやってくれるとありがたいけど、誰かのためにすること
やった方がいいのかわかったときの第一歩
何ができるか見つけるかもみんなでつけていきたい

「ずっと住みたいまちを目指して」「仲間をひろげる」

以前よりも好きになったこのまちがもっとよくなり、いいまちであり続けてほしい
まちの未来につながる活動
高校生だからできること、得意なためになること

みんなが活動すれば食堂が変わった。学校が変わった。
まずはこの活動を続けること、そして後続たちにもつないでいく
みんなにとって、楽しく元気になるかけがえのないみんなの食堂に
そして高校が地域の人手にとっても大切な場所にする
今の活動を進めていけば、学食と高校は地域にとっての大切な場所となる

まちも同じようにみんなが動けばよくなっていく。
とにかく行動できる人、そんな人になれば私たちがやりたい

いろいろな所にプロジェクト仲間を
同じように食に関わる活動をしている高校生や大人たちと繋がりたい

まずは食の活動をする仲間をつくって、地産地消のおいしい食事ができる高校生をふやしたい
同じような活動が広がれば、高校生もまちも元気になると思う。

同じ志をもった高校生や大人と繋がり
多くの仲間と一緒に活動したい
分野が違っても繋がれば生まれるものがある



子供たちとワークショップ(革でエコパック)



日本唯一の木製の食券のつくり手チーム



サマヨモの稲え付け